

スプリンターズステークス出走予定外国馬プロフィール

◆ブリザード (Blizzard、漢字表記:有得威) = 香港

せん 6 歳・栗毛 (オーストラリア産 2011 年 11 月 2 日生まれ)

父:Starcraft = 母:Stormy Choice (母の父:Redoute's Choice)

馬主 : インフィニテュード・シンジケート

調教師 : P. イウ

騎手 : G. モッセ

通算成績: 通算 26 戦 8 勝、2 着 4 回、3 着 5 回

総獲得賞金: 約 2 億 390 万円

主な戦績:	'17 香チャレンジカップ (香 G3)	1 着
	'16 香港クラシックカップ (香港ローカル G1)	3 着
	'16 香港クラシックマイル (香港ローカル G1)	3 着

ブリザードは GSA ブラッドストック資産会社の生産馬として、2011 年 11 月 2 日にオーストラリアで誕生しました。父スタークラフトはヌレイエフ系で種牡馬として日本に輸入されたソヴィエトスターの直仔で、2004 年にオーストラリアとニュージーランドで豪ダービーを含む G1・3 勝を挙げました。さらに翌年、ヨーロッパに渡って仏 G1 ムーランドロンシャン賞と英 G1 クイーンエリザベス II 世ステークスを制しますが、この 2 戦で手綱を握ったのは当時フランスで売り出し中のクリストフ・ルメール騎手でした。一方の母ストーミーチョイスはデインヒル系の成功種牡馬リダウツチョイスを父に持ち、現役時は未勝利でしたが、半兄には豪 G1 ブリスベンカップ優勝馬のデインストームがいます。母の 2 番仔となるブリザードは、血統的なことと言えば両親からヌレイエフの血を受け継ぐ「3×3」という強い近親交配が目立ちます。

2013 年 3 月にメルボルンで開催されたイングリシ・プレミア・イヤリング・セールに上場されたブリザードは、現在の管理調教師であるイウ氏に 7 万 5,000 オーストラリアドル (当時約 670 万円) で購買され、香港に運ばれました。そしてシンジケート馬主であるインフィニテュード・シンジケートの所有馬となって、2014 年 12 月 20 日にシャティン競馬場、直線芝 1,000m のインコンハンデキャップでデビューします。ここでは 3 番目に重い 58.5kg を背負いますが、スボリッチ騎手騎乗で 6 番手から楽に抜け出して、57 秒の好タイムでゴールインし、1 番人気に応えました。以降は全てシャティン競馬場の芝レースに出走しています。

その後 3 戦は先行して 2、5、6 着、2015 年 4 月 26 日のオーデマハンデキャップ (1,200m) は 5 番手から抜け出してハナ差 2 位で入線しますが、ゴール前で 1 位入線馬が進路を妨害したことが認められて、繰り上がりで 2 勝目となりました。鞍上はティータン騎手で、1 番人気でした。次いで 2 着を挟んで臨んだ 3 歳シーズン最終戦、アフォースフォーグッドハンデキャップ (1,200m) はモッセ騎手騎乗で、5、6 番手から残り 50m で抜け出してクビ差の勝利を収め、断然人気に応えました。このシーズンは 7 戦して 3 勝、2 着 2 回。デビュー戦を除く 6 戦は 1,200m 戦で、スピードを磨きながら陣営は翌シ

ーズンの「香港 4 歳シリーズ」を視野に入れてクラスを上げて行きます。

4 歳シーズンに入り鞍上はティータン騎手に戻り、9 月 13 日のチャイニーズレクリエーションクラブチャレンジカップ(1,200m;1 番人気)と 10 月 1 日の北京ハンデキャップ(1,200m;2 番人気)はともに 5 番手から差し切って 1 馬身差の勝利。次いで距離を伸ばした 10 月 25 日のゼニスエクセレントハンデキャップ(1,400m;2 番人気)は後方待機からクビ差差し切り、連勝を 4 に伸ばしますが、続く 11 月 14 日のパナソニックカップ(1,400m)は直線で後退して 10 着に敗退。モッセ騎手に再びスイッチして、12 月 27 日のチェックケンハンデキャップ(1,400m)で 2 着に入り、香港 4 歳シリーズに駒を進めます。

年が明けて 1 月 24 日の香港クラシックマイル(香港ローカル G1、1,600m)に 6 番人気で出走したブリザードは、14 頭立ての 10 番手から直線で伸びてサンジュエリー、後の香港年度代表馬ワーザーに次ぐ 3 着に善戦。次いで 2 月 21 日の香港クラシックカップ(香港ローカル G1、1,800m)は 5 番人気。中団から 3 番手に押し上げてゴール前で優勝争いに加わり、再びサンジュエリー、ワーザーに次ぐ 3 着(イースタンエクスプレスと同着)になりました。続く 3 月 20 日の香港ダービー(香港ローカル G1、2,000m;4 番人気)は、さすがに距離が長く好位追走から直線で失速。勝ったワーザーから 2 秒以上離された 12 着に終わりますが、4 歳馬による香港三冠を盛り上げました。

その後は 4 月 16 日のスポーツフォーオールハンデキャップ(1,400m)で、1 歳下で今年の香港 4 歳シリーズを完全制覇し、年度代表馬に輝くラッパードラゴンから 2 馬身 3/4 差の 4 着(ハンデ戦で同馬より 2.5kg 重い斤量)。そして 5 月 22 日のシャティンヴァーズ(香港ローカル G3、1,200m)は歩様が乱れたため出走取り消しとなり、不本意な形で 2 シーズン目を終えますが、レーティングを 105 にまで上昇させました。

そして昨年 9 月に始まり今年 7 月で終了した 2016/17 年シーズンは、5 歳になったブリザードの飛躍の年となります。最初の 3 戦はティータン騎手、スコフィールド騎手、パートン騎手が騎乗して 3、5、3 着でしたが、12 月 11 日に行われたフライングダンサーハンデキャップ(1,400m;2 番人気)でモレイラ騎手に手綱を委ねると、折り合いを欠きながらも後方からポジションを上げ、最後は 4 頭横一線の混戦を短アタマ差抜け出して優勝。この時にはラッパードラゴンを 5 着に退けています。

年が明けてすぐの香チャレンジカップ(香 G3、1,400m)は、最後方追走から最終コーナーで大外に持ち出されると直線 400m を一気に突き抜けて連勝。1 番人気に応え、デビューから 21 戦目にしで念願の重賞初制覇を飾りました。しかし、モレイラ騎手とのコンビは、この 2 戦のみで終わります。その後、1 月 30 日のセンテナリースプリントカップ(香 G2、1,200m)はリスポリ騎手で伸び切れず 5 着、2 月 26 日のクイーンズシルバージュビリーカップ(香 G1、1,400m)はローウィラー騎手で好位から粘り切れず 4 着、4 月 9 日の香スプリントカップ(香 G2、1,200m)はローウィラー騎手で、直線で進路が開かず最後に脚を伸ばしてザウィザードオブオズとともに 4 位入線でしたが、3 位入線馬が進路妨害で降着となったため、最終的に 3 着同着となりました。シーズン最後となった 5 月 7 日のチェアマンズスプリントプライズ(香 G1、1,200m)はレーン騎手でしんがりの 10 着でしたが、後方から徐々に差を詰めて勝ったラッキーバブルズから 4 馬身差の入線でした。

現地マスコミがブリザードに日本行きプランがあることを報じたのはシーズンオフ最中の 8 月のことでした。G1 クラスの競馬になると後ろから行って届かず、前で競馬をしては差し込まれると壁に当たっている感じは否めませんが、それでもスプリンターズステークスを目指すのは、過去にセイクリッドキングダム(2009 年クリスフライヤーインターナショナルスプリント)やウルトラファンタジー(2010 年スプリ

ンターズステークス優勝)など、海外も含めて広い視野をもって適鞍を選ぶことに秀でている調教師の決断によるものです。イウ調教師は 10 月 1 日のスプリンターズステークスから逆算して、香港新シーズン開幕日の 9 月 3 日に組まれていた HKSAR チーフエグゼクティブズカップ(1,200m)からブリザードを始動させます。ここではパートン騎手を起用。トップハンデということもあり 4 番人気でしたが、7 頭立ての 3 番手からじわじわ伸びて、後方から差し切ったシーズンズブルームから 1 馬身半差の 2 着でした。

香港で 4 シーズン目を迎えたブリザードですが、ここまで 11 人の騎手で 26 戦して 8 勝、2 着 4 回、3 着 5 回。コツコツと積み上げた賞金額は日本円で 2 億円を越えています。スプリンターズステークスの鞍上は、香港 4 歳シリーズをともに戦ったモッセ騎手がヨーロッパから呼び寄せられることになりました。香港は昨シーズンで有力馬が相次いで現役を引いて世代交代が進んでおり、現在の香港レーティングトップはミスタースタニングの 128(ワールドベストレースホースランキングでは 120)。ブリザードは 5 ポンド下で、もうひとつ詰めの甘いレースぶりは気になるところですが、負けても勝ち馬から 3 馬身前後をキープする堅実な競馬ぶりを見せています。なお、1,200m 戦の持ち時計は昨年 9 月 3 日の HKSAR チーフエグゼクティブズカップ 3 着時の 1 分 8 秒 3 で、この時の斤量は 53kg です。



(Photo: The Hong Kong Jockey Club)

2017 年香チャレンジカップ

スプリンターズステークス出走予定外国馬関係者プロフィール

■ ブリザード (Blizzard)

- **馬主：インフィニテュード・シンジケート (Infinitude Syndicate / 漢字表記：傲風團體)**

ライ・チョンミン(黎仲明)氏、ラウ・ヒンファイ(劉慶輝)氏、ラウ・リュントン(劉暖桐)氏を中心に 10 名の会員から成る馬主組織。「インフィニテュード・シンジケート」名義では本馬ブリザードが初の所有馬となるが、過去に個人名義で競走馬を保有していた会員もいる。

- **調教師：プーンファイ・イウ (Poon-Fai Yiu / 漢字表記：姚本輝)**

1957 年 7 月 12 日生まれの 60 歳。香港で 1974/75 年シーズンから見習騎手として騎乗を開始し、1980/81 年に攻馬手に転向するまでに通算 11 勝を挙げた。その後、調教助手を経て 1995/96 年シーズンに調教師免許を取得。

これまでの代表的管理馬は、1999 年の香港スプリントを制したフェアリーキングブローン(2000・01 年の安田記念来日時はアラン調教師管理)や、2007・09 年と香港スプリントを 2 勝し、2009 年のクリスフライヤーインターナショナルスプリントを制するなど香港を代表するスプリンターとして、年度代表馬にも輝いたセイクリッドキングダム、2014 年のアルクオーツスプリント優勝馬アンバースカイなどがある。

リーディング順位は 2009/10 年シーズン 6 位、2010/11 年・2011/12 年 5 位、2012/13 年は 7 位。その後 3 シーズンは 11、14、11 位とトップ 10 圏外だったが、2016/17 年の昨シーズンは本馬ブリザードの G3 香チャレンジカップ勝ちを含む 453 戦 45 勝で 7 位。

管理馬の日本初出走は、ウルトラファンタジーで挑んだ 2010 年のスプリンターズステークス。ホイウィン・ライ騎乗で 10 番人気ながら見事に優勝し、香港出身の調教師・騎手のコンビによる海外 G1 初制覇となった。今回の来日はそれ以来となる 2 回目。

- **騎手：ジェラルド・モッセ (Gerald Mosse)**

1967 年 1 月 3 日、フランス生まれ。1983 年 4 月、ビアンコーヌ調教師のもとで見習騎手となり、デビュー。翌年にフランスの見習リーディングジョッキーとなる。その活躍が注目され、当時の大調教師ブータンの管理馬に騎乗する機会が増え、1988 年にレスレスカラで仏オークス優勝。1990 年にはソーマレズで凱旋門賞を制覇し、1991 年にはアラジでグランクリテリウムなど G1・3 勝、プリオロでムーランドロンシャン賞を制した。このシーズンオフから香港で騎乗を開始、同じく香港に拠点を移した ビアンコーヌ厩舎の専属騎手として、2 シーズンで 86 勝を挙げた。1993 年にフランスに戻ると 2001 年まで、アガ・カーン 4 世の専属騎手として活躍を続けた。この間、仏ダービー 1 勝、仏オークス 4 勝、仏 2000 ギニー 2 勝、仏 1000 ギニー 1 勝などのクラシックタイトルを始め、数多くの G1 を優勝した。また、勝ち鞍順のリーディングでは 1994～96 年および 1999 年に 3 位に入っている。

その後 2001/02 年シーズンから再び香港に戻り、香港スプリントや香港クラシックマイル、香港ダービーなど数々のビッグレースを制した。また、2010 年にはフランス人騎手として初めてメルボルンカップを優勝したほか、2011 年は母国フランスで仏ダービー、マイルチャンピオンシップで来日したイモータルヴァースでジャックルマロワ賞など G1・2 勝、翌年は仏 G1 モルニ賞・アベイドロンシャン賞、英 G1 サンチャリオットステークス・ミドルパークステークス、加 G1 E. P. テーラーステークス、レッドカドーで香 G1 香港ヴァーズ、昨年は伊 G1 ヴィットリオディカプア賞を制するなど世界各地で活躍を続けている。

2009 年以降は香港とフランスの双方で騎乗し、フランスでは 2009 年に 451 戦 61 勝でリーディング 14 位、香港では 2014/15 年シーズンに 336 戦 37 勝で 12 位。フランスで昨年は 207 戦 19 勝、今年は 9 月 20 日現在 234 戦 19 勝の一方、香港では 2016/17 年シーズンは 36 戦 1 勝だった。トルコでも先日、G3 インターナショナルイスタンブールトロフィーと G2 インターナショナルボスボラスカップを制している。

初来日は 1988 年の富士ステークスでアワーズアフターに騎乗し 7 着。これまでジャパンカップには 4 度騎乗し、1997 年アスタラバド(6 着)、2000 年レーヴドスカー(7 着)、2009 年シンティロ(11 着)、2012 年レッドカドー(8 着)。そのレッドカドーでは 2013、14 年の天皇賞(春)で 3、14 着、その他安田記念に 4 回騎乗し、2002 年レッドペッパー(12 着)、2005 年ブリッシュラック(4 着)、2007 年ジョイフルウィナー(9 着)、2013 年ヘレンスピリット(16 着)。また、1999 年にはワールドスーパージョッキーズシリーズに参加し 5 位。